

## オーディオ実験室収載

### モーツアルト盤を聴く(81)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(81)—

#### 1. 始めに

前報(80)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

#### 2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。今回も Crystal E に 10000F の電解コンデンサーを連結しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も交響曲です。

CBS Sony SONC 1013

モーツアルト 交響曲第 40 番ト短調

交響曲第 41 番ハ長調「ジュピター」

ブルーノ・ワルター指揮コロンビア交響楽団

#### 3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

CBS Sony 盤ということで、Columbia、逆相、第 4 時定数 Low で聴いていきます。

モーツアルトの交響曲第 40 番と交響曲第 41 番という定番の組み合わせで、ワルターのモーツアルトという決定盤です。

抑揚、緩急、強弱など、いかにもワルターらしい表現でワルターが育成したコロンビア交響楽団の成果が伺えます。

#### 4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E などの総合的な効果

として、ワルターのモーツァルトという決定盤の特徴が把握できました。

以上